

版 曜

た。戦争は下手で、実戦は他人任せ。弁舌も文章も養父カエサルに一步も二歩も劣るにもかかわらず、ローマ帝国史に重要な役割を果たすことができた秘密は、一体何であったのか。

要するに、小説になりにくい男なのだ。塩野さんの口を借りれば「魅力は十分にある。ただその魅力が、作家の胸を熱くさせるたぐいの魅力ではなく、作家の頭脳を冴え返らせるたぐい



『パクス』塩野七生

『パクス』ウストクレオパトラの連合軍を破り、三十五歳のオクタヴィアヌスは、二七年、共和政体復帰を宣言する。もちろん市民からは熱狂的に迎えられ、アウグストゥス(神聖で崇敬されるべきものや場所)という尊称を元老院から贈られる。属州支配から元老院運営などカエサルの青写真とノウハウ

ら属州拡大をはじめ、元老院のリストラ、軍縮、街道建設などインフラ整備、相統税新設を含む税制改革など外交内政両面で地ならしをした。行革の手際よさは、どこかの政治家など参考にするといいい。

一方では、元老院や内閣の議決に対する拒否権、司法、軍事権、徴税者(皇帝財務官)の任命権の掌握など、決して急がず、相手から与えられる形で独裁者の

功の裏には私欲がなかったことも否定できない。オクタヴィアヌスの後、帝政によるパクス・ロマーナが訪れ、数百年続くが、それがよかつたか、悪かつたか、後世の史家によって議論の別れるところとなる。塩野さんは「カエサルが考え、その後を継いだアウグストゥスが巧妙に、嘘さえもつきながら確立に努めた帝政とは、効率良く機能する世界国家の実現であり、(元老院の)六百人には不評でも(全人口の)六千万人には好評であったというのである。だからこそ、パクス・ロマーナは長つづきしたのである」。

共和政を善とし、帝政を悪とする。歴史の常識がある。が、多数が幸せになる帝政があつて人々がそれを選べば、それもいいのではないかということをしてローマ史は実験してくれているようでもある。(影山勲)

『四次元半』

アンナちゃん(荻野アンナ)著
(河出書房新社、品切れ)

本書は東欧の著名な漫画家(ルーミアニアのスタネスクほか)が描いた絵に、「アンナちゃん」と自称するナゾの人物(前書きから)がずばぬけた想像力を駆使して文章を添えたユニークな構成となっている。

目次には、☆ドレミファあほらしド、☆愛と女とオッパイと、☆世界異常人伝……とある。怪しきこと、この上ない本である。

本書の著者、「アンナちゃん」は、私の良友であり人生の師である、ヘンリー・ガイヤー

氏のまな娘なのである。ガイヤー氏はフランス系米国人で、かつては米国海軍の艦長だった人だ。戦後もなく日本人の女流画家と結婚、以来、四十年以上を日本をベースに暮らしてきた。私とは、かれこれ十五年も前に横浜の丘の上でひよんな出会いをしてからの付き合いになる。私の最も敬愛する人物だ。

そのガイヤー氏の娘が本を書いたというので、早速、手に入れた、読んでみた。一九八三年秋のことだ。ページをめくると、

斜断機

ワシントン七月二十五日共同電その他で報道されていたが、米下院の超党派議員十七名が、第二次大戦中に日本が行ったすべての「戦争犯罪」に対し、日本政府の公式謝罪声明と被害者への即時補償実施を求める決議案を下院に提出したという。

「戦争犯罪」の中には、例によって「南京虐殺」「従軍慰安婦」のほか、七三一部隊による人体実験、グ

私の一冊

田中正則



そこにはシャレやらジョークやらが縦横無尽に飛び交っており、単なる言葉遊びのおふざけ本かとも思ったが、よく読むと、常識を皮肉り、世相をくすぐり、ついでに読者もくすぐりながら、敬礼している。私には七つの海を航海してきた偉大な父親に敬意を表しているように思えてならない。

そう、それは今でこそ確立された「アンナ・ワールド」の始まり、始まりだったのである。プレス編集部中国担当デスク

そこにはシャレやらジョークやらが縦横無尽に飛び交っており、単なる言葉遊びのおふざけ本かとも思ったが、よく読むと、常識を皮肉り、世相をくすぐり、ついでに読者もくすぐりながら、敬礼している。私には七つの海を航海してきた偉大な父親に敬意を表しているように思えてならない。

そう、それは今でこそ確立された「アンナ・ワールド」の始まり、始まりだったのである。プレス編集部中国担当デスク

芥川賞作家の出発点

がかりな東京裁判という政治ショーを展開してみせたアメリカが、今頃わざわざ決着済みの問題を蒸し返してきたのはなぜか。

彼らが在米の中国、韓国筋からどの程度の開献金をもらっているの

問題の根本は、日本の政治家たちがアジアに対して実に気軽に謝罪を繰り返してきた報いが、ついにアメリカにまで波及したということだ。一歩後退が二歩後退を招く。これが国際政治という代物なのだ。

「一歩後退・二歩後退」からの脱却

か、落ち目の議員が有力票田である東京裁判は、日本断罪のためにわざと事後立法(遡及法)を作った。原爆投下は当然その中に入る。立ちたくなることだ。「簡単につくれない、気軽に何ぞくろう(手早くでら)」という気になら、これがわたしが求める三大条件です。各章のタイトルは絶対のチキンの揚げたポテトサラダ、いよいよテクニク料理保守派宣言、撫える工夫、牛肉のおいしく食べる、病気の簡単料理など材料はチキン、卵、ポテトが中心。六十のレシピと並ぶ。現代から健康にも非意している。(ローレルウイン著、飛田訳/晶文社・二三)

著者は釣り好き、がこうじた結果、畑の豆子市内で小さな理専門店を開いた。物だ。三浦半島の漁たちから教わった料理法をもとに、書いた。

特徴の第一は、魚店では見かけない含まれていること。魚ではなく、ゴンズカハコフグ、ヒイラツボといった魚の調理法がエッセイめられている。こゝろたちが存外うまいイカやワカメなどのほかアイナゴ、シロギス、サコなど正統派を加えて類を超える魚介類。ユデダコは、じょうゆもいけ

磯料理

立ちたくなることだ。「簡単につくれない、気軽に何ぞくろう(手早くでら)」という気になら、これがわたしが求める三大条件です。各章のタイトルは絶対のチキンの揚げたポテトサラダ、いよいよテクニク料理保守派宣言、撫える工夫、牛肉のおいしく食べる、病気の簡単料理など材料はチキン、卵、ポテトが中心。六十のレシピと並ぶ。現代から健康にも非意している。(ローレルウイン著、飛田訳/晶文社・二三)

魚をおいしく食べよう

立ちたくなることだ。「簡単につくれない、気軽に何ぞくろう(手早くでら)」という気になら、これがわたしが求める三大条件です。各章のタイトルは絶対のチキンの揚げたポテトサラダ、いよいよテクニク料理保守派宣言、撫える工夫、牛肉のおいしく食べる、病気の簡単料理など材料はチキン、卵、ポテトが中心。六十のレシピと並ぶ。現代から健康にも非意している。(ローレルウイン著、飛田訳/晶文社・二三)

わたしの陽気なキッチン

立ちたくなることだ。「簡単につくれない、気軽に何ぞくろう(手早くでら)」という気になら、これがわたしが求める三大条件です。各章のタイトルは絶対のチキンの揚げたポテトサラダ、いよいよテクニク料理保守派宣言、撫える工夫、牛肉のおいしく食べる、病気の簡単料理など材料はチキン、卵、ポテトが中心。六十のレシピと並ぶ。現代から健康にも非意している。(ローレルウイン著、飛田訳/晶文社・二三)

簡単でおいしい

立ちたくなることだ。「簡単につくれない、気軽に何ぞくろう(手早くでら)」という気になら、これがわたしが求める三大条件です。各章のタイトルは絶対のチキンの揚げたポテトサラダ、いよいよテクニク料理保守派宣言、撫える工夫、牛肉のおいしく食べる、病気の簡単料理など材料はチキン、卵、ポテトが中心。六十のレシピと並ぶ。現代から健康にも非意している。(ローレルウイン著、飛田訳/晶文社・二三)

談話室



多額の応募をいただきました。ことにありがたうございました。このため二回にわたり掲載することにしました。きょうは主に「私と中国」という点に力点を置き、あす十一月一日付は「日中関係」を主な視点とした投稿を掲載させていただきます。

なぜか憎めぬ 不思議な国

谷田伊平 77
(大阪府池田市)

最初に中国を訪ねたのは昭和六十一年六月であった。初めてのツアーは欲張りな旅程で上海・蘇州を観光したあと、空路、華南の昆明へ。景勝地の桂林や石林を見てまわった。

まだ若かりし戦中、私は異常なまでに中国に関心をいだき、いまの学習塾の上のような教室に通い、中国人講師について約一年半ばかり真剣に中国語を学んだ。必ず中国へと意気込んでいたが、召集をうけて南方へ出征し、中国へのユメは消えうせてしまった。

中国旅行の途中、よみがえった片言と筆談で何とか

明確な方向性 日本人は示せ

長瀬さとこ 39
(栃木県宇都宮市)

中国という国は、私のなつかしい、本当に幸せそうだし、「日本人がうらやまし

私と中国、そして日中関係

(上)

八〇%あまりある。ここに言葉の上での信教の自由を持ちこんだために話が妙にこじれてくる。日本に二次元的発想である)の考え方

会社員 田中正則 37
(横浜市青葉区)

一九八四年九月、建国三十五周年を迎えた北京は乾いた日差しが照りつけていた。

私は日中友好協会がその年、派遣した四十人の留学生の一人として北京空港に降り立った。

アピール



躍動的な変ぼう 見守り続けたい

中国の第一印象は強烈な一変した。学生たちは大学側から故郷までの列車の切符をいづろにかいたことがあ

は変わらないうちに出現してくる。中国は変わったなあ」と言う

無念さを語る 文革での痛み

井村 丕 53
(静岡県沼津市)

四川省成都で知り合った女性、医師だった父親が文革でやり玉にあげられ、いかに一家が苦勞したか、好きなピアノの勉強を中断せざるを得なかった残念さを切々と話した。

「湯の文化」に 気さくさ実感

大北裕也 21
(大阪府中央区)

青春時代、文化大革命で、知識階級だった家族が批判され、学問することすら自由にならなかつた時代

親日派の隣人 増やしたい!

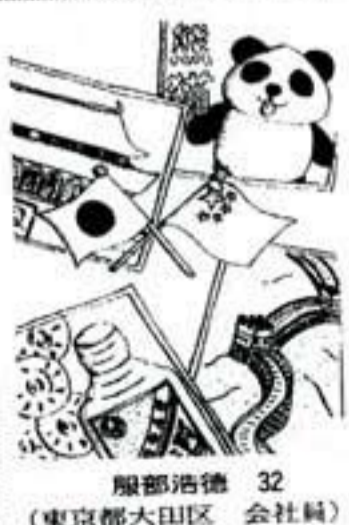
浦田哲夫 58
(埼玉県新座市)

性を示すことだと思ふ。少くとも私の知る中国の友人たちは、単なる謝罪の言

「修養」のある 庶民と交流を

小林重雄 54
(東京都渋谷区)

現代の中国は政府の民主化の進展を認めようとする。同じ主張を繰り返しているならば、過去の歴史と同じ運命をたどらな



服部浩徳 32 会社員
(東京都大田区)

よつもなく、暗い中、水を求めて徘徊(はいかい)した話だ。「やつのこと」でわが国も毅然(きんぜん)として対応するとともに、誠意をもって真摯(しんしん)付き合